

# 令和3年度 外ヶ輪小学校研究全体計画

学力向上部

＜研究主題・副題＞

## 主体的に学び かかわり合う中で 考えを深める子

～「しばたの心継承プロジェクト」における、ファシリテーション的な活動を取り入れた教育実践を通して（2年次）～

### 1 研究主題と主題設定の理由

研究主題「主体的に学び かかわり合う中で 考えを深める子」は、教育目標「ともに伸びゆく」の具現化を目指したものである。これは、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を実現した姿と一致する。

副題の「しばたの心継承プロジェクトにおけるファシリテーション的な活動を取り入れた教育実践を通して」は、研究主題達成に向けて本研究で取り組む研究内容と方策を示している。ふるさとへの愛着と誇りを育む「しばたの心継承プロジェクト」に、ファシリテーション的な活動を取り入れることで、子どもたちに「振り返りを大切に、次の課題発見・解決につなげる（問題発見・問題解決力の育成に関わる全体計画より）」問題解決の力を育成することを目指す。

#### (1) 「しばたの心継承プロジェクト」の概要より抜粋（令和元年12月 新発田市学校教育課）

##### 【新発田の教育の基本方針】

ひとが第一、ひとが大事 新発田の教育

新発田には、新発田の風土、歴史、自然や文化の中で連綿と育まれてきた「しばたの心」が存在する。「しばたの心」とは人である。人に敬意を払い、人を大事にする心、言わば、「ひとを第一に考え、大事にする心」である。

##### 【学校教育が目指す子ども像】

新発田を誇りに思い、愛する気持ちをもって夢や希望に向かって学び続ける子ども

#### (2) 外ヶ輪小学校の教育課題について（令和3年度 とがわの教育「教育課程の基本方針」より）

（下線\_\_\_\_\_は学力向上部による追記：自校の課題）

##### ① 地域や学校の環境から

当校は、旧市街地の中心部に位置し、主に商業地域と住居地域の二つの地域からなっている。校区全体の空気は平穏な中にも活気があり、住民や保護者は教育に熱心である。しかし、近年、社会構造が少子高齢化することに伴い、ふるさと新発田のよき伝統や文化、歴史を次世代に継承していく担い手の育成が課題となっている。

##### ② 児童の実態から

素直で明るく、活発な子どもたちが多く。発想も、自由で、創造的な子どもたちも多く見られる。今までの研究の成果として、子どもたちは話し合いなどの交流を通して自分の考えを伝え、他者の考えを大事にし、かかわり合いながら学びを進めていく力が身に付いている。与えられた課題に対しても最後まで諦めずに取り組む姿が多く見られる。しかし、学んだことから次の活動につながる問題を見いだしたり、自分たちの学びを生かしたりすることに弱さが見られる。このため、課題解決に向かう意欲が持続せず、受け身の活動になってしまうことが多い。

このような児童の実態から、昨年度は、「プロジェクト単元の実施」「『しばたの心継承プロジェクト』の問題解決の過程の検討」「ファシリテーション的な活動の工夫とその効果の検証」の3点を研究内容として、研究主題「主体的に学び かかわり合う中で 考えを深める子」を目指した。

##### ③ 昨年度の研究実践から

新発田の人材を活用したプロジェクト単元の設定や地域人材と繰り返しかかわることで主体的に課題を発見し解決を図ろうとする子どもの姿が見られた。また、地域人材からの外部評価により、地域のために取り組むことへの充実感を子どもたちにもたせることができた。一方、活動ありきで子どもの思考

が深まっていないということが課題として浮かび上がった。どこで何を考えさせ、活動させるのか、発達段階に沿った単元構成の工夫が必要である。

上記の実態を踏まえ、昨年度に引き続き、本研究主題の目指す子どもの姿を活動の中で具現できるよう研究を進めていく。そうすることで、ふるさと新発田の伝統・文化に対する愛着を育てていけるものとする。

## 2 育成を目指す資質・能力等

以下の資質・能力の育成に重点を置き、教育目標の具現化を目指した研究を進める。

(下線は 学力向上部による追記：自校の課題解決のため特に必要となると考えられる力)

### (1) 外ヶ輪っ子に育てたい資質・能力

教育目標「ともに伸びゆく ～かかわる つづける ふりかえる～」に照らして子どもの育ちを見つめ直した結果を受け、次の資質・能力の育成が課題として挙げられた。

外ヶ輪っ子に育てたい資質・能力 4つのキーワード	
A：主体性	ねばり強く挑戦し続ける主体性や主体的に判断し行動する力
B：学び合う力	認め合い、高め合うコミュニケーション力（言語能力、論理的思考力）
C：問題解決力	自ら課題を見だし見通しをもって主体的に解決しようとする問題発見・解決力
D：活用力	学んだことを生かしよりよいものを求める活用力

とがわの教育「Ⅱ 教育課程編成の基本方針」より

### (2) 「問題発見・問題解決力の育成」の目標及び重点

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの生活経験や身に付けた知識を活かし、事象に対して問題を見出す力を身に付ける。（知識・技能）</li> <li>○ 問題を解決する方向性や解決方法を探して、予測をもとに活動を実行することができる。（思考力・判断力・表現力等）</li> <li>○ 結果から予測との違いを振り返り、粘り強く活動し、次の問題発見・問題解決につなげる態度を身に付ける。（学びに向かう力・人間性）</li> </ul>
重点	<p>【内容の重点】</p> <p><u>事物の中から問題を見出し、問題解決の方向を定め、結果を予想しながら計画を実行する。</u></p> <p><u>振り返りを大切にし、次の問題発見・解決につなげる。</u></p> <p>【指導の手立ての重点】</p> <p>予想・実験・考察・<u>振り返りの場を設定する。</u></p> <p><u>自他の考えを交流する場を設定し、かかわり合いを大切にする。</u></p>

とがわの教育「Ⅳ-15 教育課程編成の基本方針」より

### (3) 「地域・郷土の伝統・文化に関する教育」の目標及び重点

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域・郷土で育まれてきた伝統と文化に触れ、幾多の困難を乗り越えてきた先人の努力などを理解する。（知識・技能）</li> <li>○ 地域・郷土について調査したことを生かし、考えを交流したり、工夫して発表したりする。（思考力・判断力・表現力等）</li> <li>○ 地域の一員として、地域の発展に寄与するとともに、地域・郷土を愛する心を育てる。（学びに向かう力・人間性）</li> </ul>
重点	<p>【内容の重点】</p> <p><u>地域・郷土がもつ伝統・文化のよさを知り、地域・郷土を大切にする心を育てる。</u></p> <p>【指導の手立ての重点】</p> <p>現地学習や<u>ゲストティーチャーの活用</u>を進める。</p> <p>地域素材を発掘し、授業の中に取り入れていく。</p>

とがわの教育「Ⅳ-17 教育課程編成の基本方針」より

### 3 研究内容

本主題の「主体的に学び かかわり合う中で 考えを深める」姿とは、具体的にどのような姿が見られたら達成されたといえるのかは次のような姿と考える。

**【問題解決力】**

仲間とかかわり合う中で、問題を発見したり、解決の見通しをもったり、解決したりする姿。

**【新発田への愛着】**

新発田のよさを知り、新発田を大切にすることをもつ姿

→新発田のために何かしたいと思う姿

→新発田のよさを伝えたいと思う姿。

本姿を達成するために以下の2点について研究を進める。

#### (1) プロジェクト単元の実施

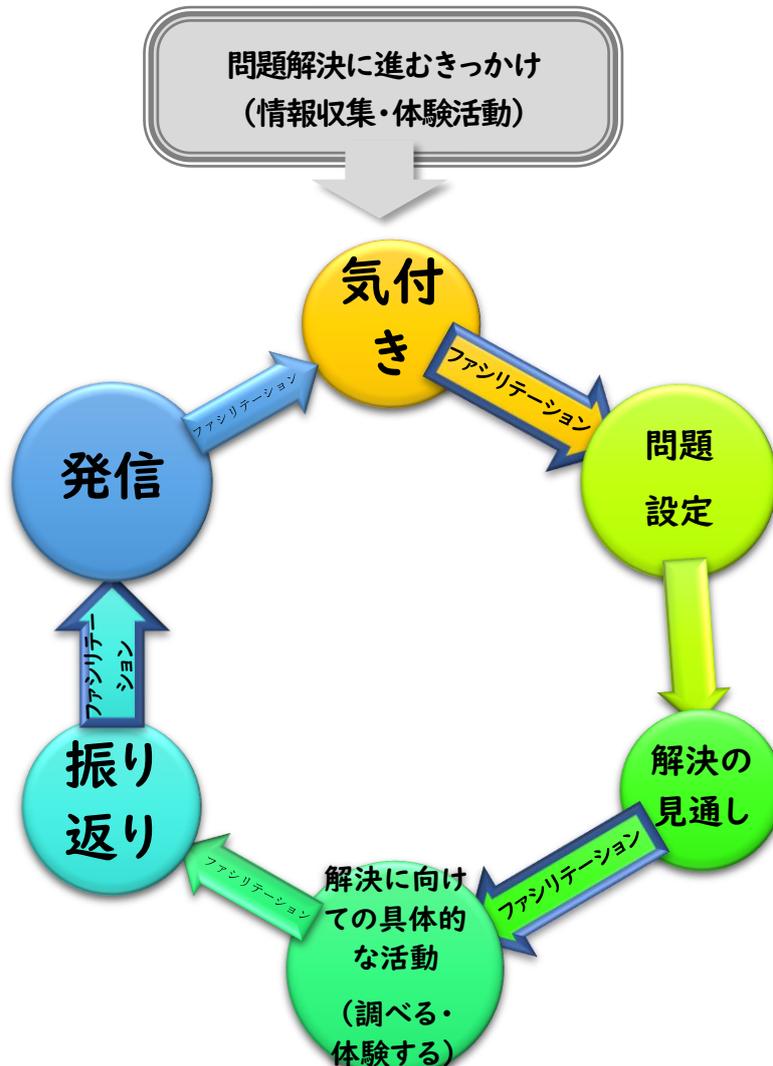
「しばたの心継承プロジェクト」の目的に合った単元を学年1単元以上設定し、年間指導計画の実践と見直しを行う。単元では、「ひとが第一、ひとが大事、新発田の教育」をもとに、新発田の人材を活用した学習内容、学習活動を工夫する。(総合的な学習の時間 年間指導計画例を参照)

児童の追究意欲の原動力となるのは、適切な学習課題の設定である。このような課題を児童自ら見いだせるような活動を仕組んだり、発問を工夫したりする。

#### (2) ファシリテーション的な活動の工夫とその効果の検証

「事物の中から問題を見だし、問題解決の方向を定め」たり、「振り返りを大切にし、次の問題発見・解決につなげ」たりする力を育成するために、ファシリテーション的な活動を学習に取り入れるようにする。その取組の中で、「しばたの心継承プロジェクト」単元では、ファシリテーション的な活動を、問題解決の過程(外ヶ輪モデル)のどの場面で、どんな手法(グループ編制の仕方、考えを方向付ける思考ツールの工夫など)で行うと児童の思考の深まりや、意欲の高まりがあるかを検証する。

その中で、タブレット端末の有効な活用も模索する。



#### 4 研究方法

- (1) プロジェクト単元前、1学期末、2学期末に児童アンケートを取り、児童の意識の変容を見取る。
- (2) 授業研究では、対象児や対象グループを観察する職員は、1時間の児童の変容を追い、具体的に記録に残す。(発言、つぶやき、プリント等の記述等)

#### 5 研究のまとめ

・各学年が行う授業研究を中心に、具体的な児童の変容と教師の考察を記述する。また、どのような場面で、どのような手法でファシリテーション的活動を行うと、児童の思考をより深めることができるか、手だての有効性について記述する。

・目ざす子どもの姿に照らし合わせ、単元全体を通した児童の変容（児童評価アンケートの結果も含む）を記述する。

#### 6 年間計画

月	予定	備考
4	研究の引き継ぎと今年度の研究の方向について全体計画作成	三部会①【今年度の学校評価】
5	研究全体会①【研究全体計画の説明】	三部会②（25日）
6	研究全体会②【タブレット端末研修会】	三部会③（7日）
7	研究全体会③【タブレット端末研修会】	三部会④【学校評価】（28日）
8	研究全体会④【大研Ⅰ単元構想検討会】	三部会⑤（23日）
9/15	研究全体会⑤【大研Ⅰ指導案検討会】 研究全体会⑥【大研Ⅰプログラミング教育授業研究】 (授業者：中川 聖也 4年1組)	三部会⑥
10	研究全体会⑦【大研Ⅱ単元構想検討会】	三部会⑦【授業検討】（4日）
11	研究全体会⑧【大研Ⅱ指導案検討会】	三部会⑧【授業検討】（22日）
12/6	研究全体会⑨【大研Ⅱ外ヶ輪の未来を語る会授業研究】 (授業者：長谷川祐美子・臼井弘子 5年)	三部会⑨【学校評価】（13日）
1	研究全体会⑩【研究のまとめの作成】	三部会⑩（17日） 三部会⑪（31日）
2	研究全体会⑪【1年間の総括と次年度の課題】	三部会⑫【学校評価、まとめの校正】（14日）

#### 大研について

- ① プログラミング教育 授業研究（9月15日） 授業者：中川 聖也（4年1組）  
講師：皆川 孝 様（新発田市プログラミング教育推進協議会 会長）
- ② 外ヶ輪の未来を語る会 授業研究（12月6日）授業者：長谷川 祐美子 臼井 弘子（5年）  
講師：

